

TAKE  
FREE

# 馬旅

うまたび

モンゴルで乗馬、  
馬に乗って旅に出よう！  
B風の旅行社

さあ、いっとSKLV

南九州畜産獣医学拠点

人生で最も欲張りな旅を叶える

トルコ・カツパドキアで乗馬

表紙/馬のイラストレーター

おがわじゅり

リトレーニングに取り組む競走馬の牧場

イクタトレイニングファーム

馬事業界初 A-エッジカメラによる

厩舎管理へ「aiba」

馬とともにコミュニケーションとリーダーシップを学ぶ

「JINBA」プロジェクトの誕生

老舗馬具屋と乗馬クラブの挑戦

ノーマンステイブルとは

全日本学生馬術連盟

オランダ&フランス研修レポート

募集！JRA栗東トレイニング・センター

親子で職場体験

馬に乗ると旅はもっと楽しくなる



AIカメラで  
厩舎を監視

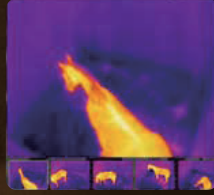


馬事業界初

# AIエッジカメラによる 厩舎管理へ

「aiba」を用いた厩舎管理

- ✓ 24時間見ることができる
- ✓ AIカメラで異状を即時に検知
- ✓ 状況報告に加え、履歴を残せる



2023年11月、AIエッジカメラを使用した検知プロダクトを展開する株式会社アプリズムは厩舎で馬の異状をリアルタイムに検知するAIプロダクト「aiba」をリリース。開発に至るストーリーや機能について開発チームの皆さんにお話を伺いました。

きっかけは大学馬術部の息子の姿を見て

あり、宿直で週に2〜3回は泊まり込み、日中も担当馬に何かがあれば駆け付けなくてはならず、授業に支障が出る心配もありました。そんな一般的なキャンパスライフと程遠い姿を見て、自社のAI技術でなんとかできないかという想いが開発のきっかけとなりました。

親心から  
社内プロジェクトへの道のり

まずは大学や乗馬クラブに協力を仰ぎ、厩舎の動画を収集するところからスタート。AIの知識の深化（ディープ化）には、画像にすると2万枚以上分の動画が必要です。人間の目線ではなくカメラを設置する厩舎の高い位置から見た馬をAIに認識させるのは、世界にも前例が無く大変な作業でした。

次に「馬のどんな動きをもって異状とするか」という問題があります。乗馬クラブの経営者、獣医、馬術部の部員など異なる立場の方々から話を聞いたところ共通して出たのが「疝痛（せ

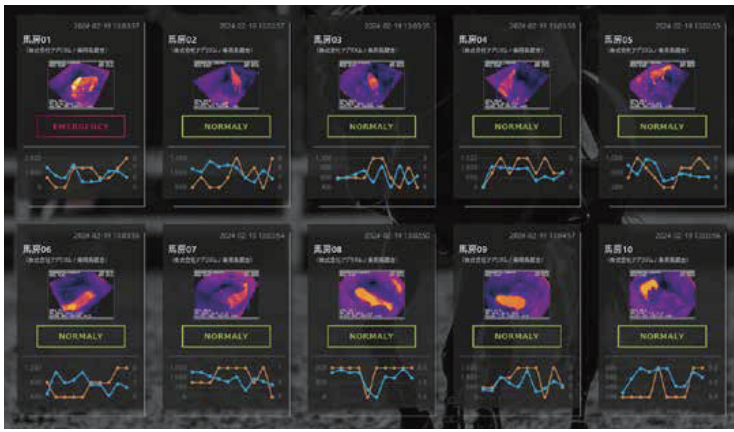


「aiba」開発チームメンバーの皆さん

んつう）」でした。

疝痛の原因はさまざまですが、死に至ることもある異状です。疝痛があると馬は前かきをしたリクルクル回ったり普段と違う行動をする。これを分析して学習用の異状としていく方針を決め、過去に撮った動画から認識させるプログラムを組み……というところまでにかかった歳月が約1年です。

実は、ここまでは「AIでこ



馬の運動量や  
体表面温度の変化を検知

AIエッジカメラ

サーモカメラ

アラート発信時の様子を  
お手持ちのデバイスで動画再生

グラフ

ういうことができる」ということを社会に示したい気持ちが大きく商業化は考えていませんでした。しかし社内ですら「困っている人が助けられるのでは」というメンバーが出てきて、製品化へ向けてプロジェクトチームが立ち上がる事になりました。

馬着のある馬やずっと後ろを向いている馬もAIに認識させなければならず、そういった問題を一つずつクリアしながらリリースに至るまで計2年の年月がかかりました。

### 馬事業界初の AIエッジカメラ による厩舎管理へ

AIでの異状検知という技術面はクリアできる目処が立ち、具体的なプロダクトをどうするか段階へ進みまます。異状を検知したらユーザーへ何をどう届けるのが最後の開発ステップでした。

AIが異状を検知するとアラートを発信して厩舎モニターやスマホ、スマートウォッチでもわかるようにしました。リアルタイムで誰が対応可能かをチャット形式で相談できるようにシステムを設計、対応した結果をボタンや自由テキストで共有できます。ドライブレコーダーのように異状を検知した前後の動画を見ることも可能です。

利用に大掛かりな設備は必要ありません。一般的な厩舎のサイズ感で馬とぶつかる心配のない高さなら電源さえあればAIエッジカメラは設置可能です。

お申し込みから設置までは約2ヶ月。私たちはただ売りたいだけではありません。事前に現地へ伺いきちんと効果を出せるのか、安全に設置できるかなど確認をしてから設置へ進めます。カメラが壊れた場合は追加料金なしで交換の対応が可能です。

### バージョンの完成と これからの展望

現在はバージョンがリリース

スされ、2024年夏までにはカメラレンズを増やして取得できる情報を増やしたバージョン2のリリースを目指しています。その先のバージョン3では異状検知だけでなく馬のトータルコーディネートを目指しています。餌の量、運動量、厩舎内での行動などから馬の健康管理を行いたいという考えです。

私たちはただ利益を追求するのではなく、システムの設置後も厩舎へ訪問して様子を伺うような継続的な関係を築きたいと考えています。

馬の異状行動が実際にAIで検知できた時の感動は忘れられません。開発のきっかけは馬のお世話で大変な子どもへの助けになりたいということだったのが、本当にいいものをつくりたいというエンジニア魂に火がつきプロジェクトチームが発足、たくさんの方々からニーズを伺って将来的にはアニマルウェルフェアへも繋がるプロダクトを産んだのです。

AIは医師ではないので診断

AIが馬を守る  
新時代へ

aprrhythm

aiba  
Powered by aprrhythm

aiba公式ホームページ  
<https://aiba.solution.aprrhythm.ai>

aprrhythm

サービスのお問い合わせは▶

取材：文馬旅編集部

することはできません。しかし、異状検知から疝痛を早期発見して治療することができれば、今まで助けられなかった命を助けられる可能性があります。今後はさらに精度の高いサービスにより馬事業界の発展に貢献していきたいです。